

2020年9月15日

各 位

社名 GFA株式会社
代表者名 代表取締役 片田 朋希
(JASDAQコード番号：8783)
問合せ先 経営企画部 主任 西野 麻衣
(TEL 03-6432-9140)

カンボジアへの地雷除去ロボット（DMR）の開発・配備を進める IOS株式会社の第三者割当増資引受に関するお知らせ

当社は、本日カンボジアへの地雷除去ロボット（DMR＝Demining Robot 以下、「DMR」）の開発・配備計画を日本政府が支援するカンボジアの政府機関CMA C（Cambodian Mine Action Centre）とともに進めるIOS株式会社（本社：東京都新宿区 代表：今井賢太郎 以下、「IOS」）の実施する第三者割当増資の引受を決定しましたので、お知らせいたします。

1. 第三者割当増資引受の理由

当社では、2020年1月に「投資銀行宣言」を策定し、戦略の軸にSDGsを置くこととしております。その中で「サステナブルな環境を構築し、全世界の人から必要とされる会社になる」「ITにより途上国の人たちにたくさんの収益機会を提供し世界中の貧困をなくす」ことを目的に、ITを活用した新しいビジネスの創出やこれまでの産業構造の変革、途上国への資金供給や投資機会の創出の実現を目指しSDGsを軸とした事業への取り組みを進めております。SDGsは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標ですが、SDGsは、従来の開発目標のように国やNGOのみを主体に達成を目指しているのではなく、民間企業による積極的な取り組みも求められているのが重要なポイントです。

本日、当社が第三者割当増資の引受を決定したIOSは、カンボジアへのDMRの開発・配備計画を進めている会社であり、途上国における人々の安全な生活の確保、地雷除去後の有効な土地利用等を通じて人々の生活水準の向上を目指すSDGs企業です。

IOSを資金的に支援することは、「事業を通じて社会へ貢献する」という当社の経営理念に合致するものであり、また、IOSの企図しているカンボジアにおける将来の土地利用事業への参画は新たなビジネスチャンスに繋がるとともに当社が取り組むSDGsの推進にも直結するものと判断し、今回の第三者割当増資を引受けることとしました。

2. IOSについて

①活動内容

現在、地球上には7,000万個から1億個の地雷が残され、毎年6,000人から8,000人の人が地雷により受傷しており※1、現在の手作業による地雷除去活動では全ての地雷除去完了までに1,000年以上かかると言われております。

IOSは、ロボットの研究・開発を行う企業であり2017年以降CMA C※2と連携しDMRの共同開発に取り組んで来ており、DMRの開発・配備は危険な地雷除去作業から作業員を開放し、地雷埋設地域の人々の生活の安全を確保し、地雷除去後の有効な土地利用を進める大変社会的意義の大きな活動です。

IOSは、2023年度にカンボジア国内にDMRの配備を完了する計画（以下、「本計画」）を進めており、また、地雷撤去後の安全化された土地の有効活用事業（農業用地としての開発や事業用地としての日本企業の誘致）を企図しておりますが、本計画及びその後の土地利用事業の実施のため相応の資金を必要としており、今回当社に引受けの打診があったものです。

IOSが進める本計画はカンボジアにおける地雷問題の解決に資するだけでなく、本計画実施後に計画されているカンボジア以外の地雷埋設地域（コロンビア、アンゴラ、イラク等）へのCMA Cとの連携を通じたDMR配備は、SDGsの目標17（パートナーシップで目標を達成しよ

う)において重要な手段とされている「南南協力」「三角協力」※3による世界的な取り組みとして世界中の地雷問題の解決と安全化された土地の有効活用に資するものです。

②会社概要

名称	I O S株式会社
所在地	東京都新宿区新宿三丁目11番12号
資本金	3,000万円
経営陣	取締役会長 狼 嘉彰 代表取締役社長 今井賢太郎 取締役 山本 宏 監査役 鈴木 隆
事業内容	ロボットの研究・開発など
設立年月日	2016年5月26日
認定等	2019年8月23日 JICAによる「中小企業・SDGsビジネス支援事業」に採択 2020年8月26日 JICA-SDGsパートナー認定
Webサイト	http://ios-robot.com/

(経営陣の紹介)

取締役会長 狼 嘉彰
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント（SDM）研究所・顧問
東京工業大学・名誉教授
略歴 1968年東京工業大学大学院博士課程終了（工学博士）
科学技術庁航空宇宙技術研究所（現JAXA）、東京工業大学機械宇宙学科
慶應義塾大学システムデザイン工学科教授を経てSDM研究科委員長・教授
この間、米国UCLA客員研究員、NASAフェロー、MIT客員研究員、
宇宙開発事業団（現JAXA）筑波宇宙センター研究総監を兼任

③地雷除去ロボットDMR

カンボジア視察と試作を重ね、現在「掘削・同定」のロボット化に取り組み中
※地雷除去作業は「除草」「探査」「掘削・同定」「爆破」の4ステップで行われます。
(2018年6月現地デモ) (2019年2月現地デモ)



3. 今後の見通し

本件が当社の業績等に与える影響については、軽微であります。

今回の当社によるI O S第三者割当増資の引受は、当社の「社会貢献」「SDGsへの取り組み」の一環及び将来のビジネス領域の拡大を視野に入れ行ったものであり株式保有割合は1%未満となっております。なお、本件は2020年7月1日に開示いたしました第6回新株予約権の資金使途であるM&Aには該当いたしません。

- ※1 出典) Landmine monitor 2015-2019
- ※2 CMA Cについては下記をご覧ください。
<https://cmac.gov.kh/>
- ※3 「南南協力」「三角協力」については下記をご覧ください。
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/11_hakusho/keyword/keyword01.html



Innovative Ops. Systems

以上